

## 7月3日：2日続落を経て、反発

- 週初の取引は海外市場と同様に、VN 指数は前日から上昇して引けた。5月のアメリカの個人消費支出指数は大きく低下した。
- 投資家の慎重な姿勢によりキャッシュの流入は弱く、強気な姿勢は維持されなかった。よって市場はじりじりと下落する場面もあった。
- 1,120 ポイントのサポートラインを付けると、買いの勢力も台頭し上昇に転じるも一進一退となった。
- 253 銘柄が上昇し、169 銘柄が下落、59 銘柄は変わらずだった。
- 流動性も低く、売買代金は 10.8 兆ドンにとどまった。

### VN30 指数は、ほぼ横ばい (+0.02%)

- 時価総額・流動性の大きい 30 銘柄で構成する V N 30 指数は、15 銘柄が上昇、10 銘柄が下落、5 銘柄は変わらずだった。
- GVR(+3.9%)、BID (+2.7%)、BCM(+2.1%)、VHM (+1.6%) GAS(+1.1%)などの上昇が目立った。
- また下落では NVL(-2.0%)、TCB(-1.1%)などが目立った。

### セクター・個別株の動き

- 魚介類加工セクターでは、ベトナム魚介類輸出機構が魚介類の輸出が月間で改善し、また 2023 年下期も堅調であることが予測されるとの発表を受けて、ANV(+4.5%)、VHC(+6.9%)、CMX(+4.7%)、FMC(+4.0%)、などが上昇した。
- 化学肥料メーカーも、尿素価格が突然 11%上昇したことを受けて、BFC(+3.3%)、DCM(+3.2%)、DPM(+2.6%)など急上昇した。
- 外国人投資家は 1,330 億ドンを買い越した。HPG(+0.2%)が最も買いを集めた半面、VPB(+0.0%)、PNJ(-1.3%)などは売られた。

## ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Co., Ltd (JSI)から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。